地域再生計画評価調書(地方創生拠点整備交付金事業効果検証調書)

地域再生計画の名称	「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画	施設整備計画の名称	瀬戸内しまなみ海道沿線(大三島)における滞在・交流拠点整備事業	平成29年度評価
総合戦略における位置づけ	基本目標3. だれもが訪れたいと感じる魅力あふれるふるさとを創る 具体的施策(ア)サイクルシティ構想の推進 ①サイクルステーション構想推進 基本目標3. だれもが訪れたいと感じる魅力あふれるふるさとを創る 具体的施策(ウ)広域観光周遊ルートの形成 ①広域観光周遊ルートの形成 基本目標4. 中心部と周辺部が連携した日本でいちばん住みたい地域を創る 具体的施策(イ)日本でいちばん住みたい地域づくり ②小さな拠点を核とした地域づくり			

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

評価指標	基準年数値	目標数値、実績値及び目標数値に対する達成度						達成度についての分析	
			2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (平成31年)	2020年 (平成32年)		最終年目標数値 2020年
目標1 観光入込客数	2,841 千人	目標	+29 千人 (2,870 千人)	+30 千人 (2,900 千人)	+40 千人 (2,940 千人)	+60 千人 (3,000 千人)	+80 千人 (3,080 千人)	+239 千人 (3,080 千人)	目標1については、しまなみ海道や村上 海賊の認知度が上がっていることもあ り、前年度より1.3%上がった。 目標2のレンタサイクル利用件数につ いては、前年度より6.5%増加してい る。前年度は、9月の行楽シーズンに週末 ごとに天候が悪かったため、貸出実績 が大幅に落ち込んだが、平成29年度 は、10月の台風の影響があったもの の、貸出実績は順調に推移した。 目標3については、前年度比12.8%ほ ど下がったが、この要因については、拠 点整備交付金を活用した建物等の改 修工事が11月から開始されることに ともない、宿泊事業を11月以降は停止 したことによるものである。
		実績	▲60 千人 (2,781 千人)	+37 千人 (2,818 千人)				▲23 千人 (2,818 千人)	
		達成度	▲206.9%	123.3%				▲9.6%	
目標2 レンタサイクルの利用件数	67,012 台	目標	+2,988 台 (70,000 台)	+4,000 台 (74,000 台)	+5,500 台 (79,500 台)	+7,200 台 (86,700 台)	+7,500 台 (94,200 台)	+27,188 台 (94,200 台)	
		実績	▲4,664 台 (62,348 台)	+4,029 台 (66,377 台)				▲635 台 (66,377 台)	
		達成度	▲156.1%	100.7%				▲2.3%	
目標3 施設利用収入	26,000 千円	目標	+2,000 千円 (28,000 千円)	+2,000 千円 (30,000 千円)	+6,000 千円 (36,000 千円)	+3,000 千円 (39,000 千円)	+4,000 千円 (43,000 千円)	+17,000 千円 (43,000 千円)	
		実績	+1,050 千円 (27,050 千円)	▲3,458 千円 (23,592 千円)				▲2,408 千円 (23,592 千円)	
		達成度	52.9%	▲172.9%				▲14.2%	

事業の目的	近年急増している外国人サイクリストを中心とした観光客の島しょ部における周遊・滞在拠点を整備するため、大三島ふるさと憩いの家(大三島宗方)を改修して集客力と拠点性の強化を図るもの。	事業費	117,149千円
施設整備の内容	<p>【拠点機能強化のための建物改良】 国内外からサイクリストや観光客を呼び込み、島しょ部における滞在・交流拠点として機能強化を図るため、2階建て棟の2階部分の一部を食堂兼交流スペースとして利活用できるよう屋根・床下の改修と耐震補強工事を実施した。2階建て棟の屋根は瓦屋根から板金屋根に改修して軽量化し、耐震性能を高めた。</p> <p>【入浴施設の増設】 海を眺めながら入浴できる風呂棟(セミパブリックバス)を増設し、風呂棟と本棟(2階建て棟)の間には、景観に配慮した誘導路として渡り廊下(石畳)を設置し、利用者の利便性を向上させ、滞在拠点としての機能強化と誘客促進、交流機会の拡大を図る。</p> <p>【インバウンド誘客のための模様替え】 客室のフローリング化や来訪者も利用できる洋式トイレの増設、交流スペースの設置、食堂の内装や照明等の改修により、宿泊・利用環境を整備することで滞在拠点に必要な快適性を高め、インバウンドの誘客促進を図る。</p>		
事業効果	廃校となった木造の小学校を耐震化し、宿泊施設及び地域の交流拠点としてリノベーションを行うとともに、海の見える風呂棟の新設による新たな観光機能を付加することで、瀬戸内しまなみ海道におけるサイクリストやインバウンドの滞在・周遊の拠点や地域住民の交流の場として利用されることで、地域の活性化に繋げることができた。		

外部有識者からの意見

- 総合戦略のKPI達成に有効であった
 - 総合戦略のKPI達成に有効とは言えない
- (意見)

サイクリストをはじめとする交流人口の滞在・周遊拠点や地域との交流拠点として、地域活性化に向けた施設の有効活用においては、今後の展開に期待をるところである。
その一方で、大三島における2次交通が確保されていない点において、ビギナーであるサイクリストを誘導する手法についても今後検討していく必要がある。
あわせて、施設利用収入の目標値の達成においては、季節ごとの他イベント等と連携させたパッケージ商品の展開等により、年間を通じた施設稼働率の担保についても検討していく必要がある。